

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床基礎検査学	1年次	必修	講義	1単位（30時間）	小林 浩二
授 業 概 要					
臨床基礎検査は一般検査とも呼ばれ、各施設において一般的に行われている検査であるため、臨床現場に対応できる確実な知識をつける必要がある。具体的には、検体採取法、保存法、検査法、病態との関連を体系的に学び、病態解析に対応できる知識を身に付ける。検査分野の中でも検査依頼頻度の高い尿検査、便潜血検査、脳脊髄液検査を重点的に学ぶ。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師の職責について理解できる。</li> <li>・検体採取及びその取り扱いについて理解できる。</li> <li>・尿検査項目の基準値を列記できる。</li> <li>・尿検査上の偽陽性反応及び偽陰性反応について理解できる。</li> <li>・一般検査項目の臨床的意義（疾病との関連性）について理解できる。</li> <li>・尿沈渣において標本作製について理解できる。</li> <li>・尿沈渣標本の鑑別をすることができる。</li> <li>・糞便を用いた検査（潜血、脂肪、抗原）について理解できる。</li> <li>・脳脊髄液の一般的性状を理解できる。</li> <li>・脳脊髄液の生化学検査、細胞数算定について理解できる。</li> <li>・その他の一般検査（穿刺液、精液、喀痰、他）について理解できる。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
学 習 内 容					
回	学 習 内 容				担当教員
1	一般検査総論：検査内容、各種検体取り扱い、保存				小林 浩二
2	尿一般的性状：尿の生成と組成、尿量、色調、混濁、比重、浸透圧				
3	尿検査1：糖、蛋白の性状及び検査法				
4	尿検査2：ケトン体、ビリルビンの性状及び検査法				
5	尿検査3：ウロビリニン体、潜血の性状及び検査法				
6	尿検査4：その他尿成分、尿自動分析装置、腎機能検査				
7	尿沈渣1：標本作製法、鏡検法、染色法				
8	尿沈渣2：細胞成分、円柱、結晶				
9	糞便検査1：糞便の生成と組成・一般的性状				
10	糞便検査2：潜血検査、脂肪便検査、抗原検査				
11	脳脊髄検査1：生成と組成・一般的性状、採取法、基準範囲				
12	脳脊髄検査2：化学的検査法及び細胞学的検査				
13	穿刺液検査				
14	喀痰検査、精液検査、鼻汁検査、CAPD廃液検査、その他				
15	一般検査におけるPBLの実践				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書及び講義資料を用いて予習・復習を行うこと。</li> <li>・記憶の定着を促すため、定期的にWEB教材による知識の確認を行うこと。</li> </ul>					
評 価 方 法					
定期試験（70%）及び小テスト（30%）により評価する。小テストは項目ごとに実施するが、項目によっては小テストに代わり、課題提出による評価を行う場合がある。また、遅刻や欠席等で小テストを実施しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。なお、再試験は小テストの内容を合わせて出題し、これを評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>[教科書]</p> <p>最新臨床検査学講座 一般検査学（編集：三村邦裕、宿谷健一 出版：医歯薬出版株式会社）</p> <p>[参考書]</p> <p>一般検査技術教本（監修：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 出版：丸善出版）</p>					